

症例

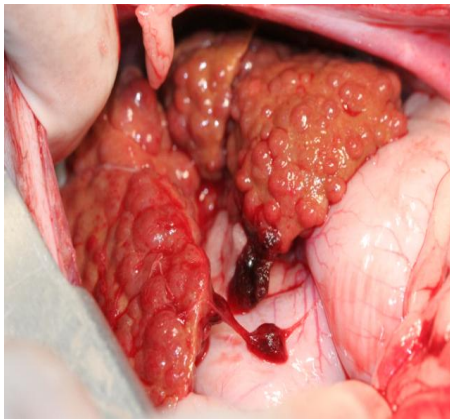
1. ヨークシャテリア 7歳 メス 体重 4.3 kg

主訴： 3週間前より腹部膨満（腹水貯留）
食欲不振

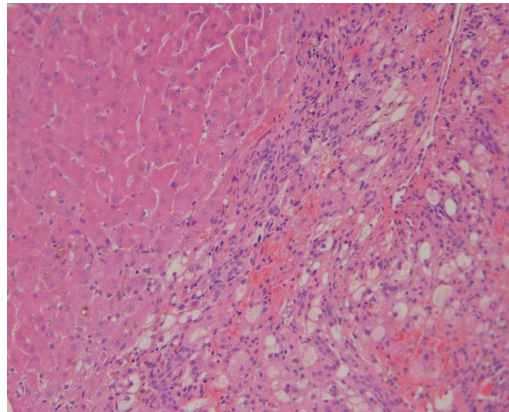
経過：紹介先で利尿剤に反応しない腹水、
肝酵素上昇で来院



試験開腹時肉眼所見



病理組織



HE 染色×100

初診時の治療

アルマトール 2mg/kg BID
ラシックス 2mg/kg BID
SAME 100mg/head SID
ウルソ 15 mg/kg SID
肝臓用処方食

栄養療法に基づいた治療

→ アルマトール 1mg/kg BID
→ 休薬
→ 休薬
→ ウルソ 10mg/kg BID
→ 手作り食（低タンパク食、低ナトリウム食）
ベジタブルサポート Dr プラス 2g TID
アミノ酸製剤 1g/head TID
亜鉛製剤 5mg/kg BID

この肝臓で1年生存して、なおかつ
QOLは非常に良好！

治療経過

項目	初診時 BW 4.3kg (腹水あり)	4週間後 BW 3.5kg (腹水なし)	1年後 BW 4.7kg (腹水なし)	単位
Alb	2.0	3.0	3.3	g/dl
TP	4.7	6.3	6.4	g/dl
ALT	507	321	89	U/L
AST	643	179	59	U/L
ALP	3782	2716	286	U/L
PT	9.0	7.8	6.3	sec (6.0-8.5)
APTT	22.0	15.8	12.7	sec (10.5-16.5)

すべての項目で改善が認められた！！

治療の Point !

利尿剤で反応しない腹水が貯留しているため、手作りフードでナトリウム制限を行った。ベジタブルサポート Dr プラスを手作りフードに添加することによって動物は喜んで食事を摂取するようになり、食欲が改善した。肝臓の肉眼所見より、BCAA 濃度をより上昇させるために BCAA 製剤を併用した。

血中の BCAA 濃度が上昇すると、筋肉でアンモニアの解毒が可能となる。しかし、いくら BCAA が豊富にあったとしても血中の亜鉛濃度が低下しているとアンモニアを代謝することができないため、BCAA 製剤と亜鉛製剤を併用した。亜鉛製剤には、抗線維化作用なども認められるため、線維化が認められる症例に対しては有用な治療法であると考えられた。

この症例は、初診時から1年経過しているが臨床症状は極めて順調である。まれに食欲が低下することがあるが、現在血液検査所見では、ほとんど異常は認められていない。体重も腹水が認められていないのに増加している。このようにベジタブルサポート Dr プラスを中心とした栄養療法を行うことによって、肝機能が低下した患者でも、肝機能を維持改善させることが可能である。

※記事・写真の無断転載を禁じます。